

## 再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No.1 - 4)

<b>件名</b>	ハル洗浄槽からのハル排出シュート管における詰まり	
<b>事象の概要</b>	<p>(1) 発生場所: 機器 前処理建屋: ハル洗浄槽</p> <p>(2) 発生の状況 ハル洗浄槽の運転中</p> <p>(3) 概要 ハル洗浄槽からのハル排出シュート管内での不溶解残渣(溶解しない金属の微粒子)等の堆積に起因するハルの詰まり</p>	
<b>事象による影響</b>	<p>(1) 工場外への影響 <b>工場外への影響は生じない。</b> 前処理建屋換気設備が稼働しているハル洗浄器に接続されたハル排出シュート内での事象及びそれに伴う復旧作業なので、放射性物質の放出等の環境への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 <b>安全上の問題は生じない。</b> ドラムへの充てん状況の監視により詰まりを発見し、ハル洗浄槽の運転を停止するため、ハル排出に一時的に影響を受けるが、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響 <b>作業員への影響は生じない。</b> 堆積物の除去等の復旧作業は、セル外からの遠隔作業なので、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 <b>下流の工程の運転に影響がある。</b> ハルの回収により、一時的にせん断機・溶解槽等の運転に影響が生じる。さらに、下流の分離建屋以降の工程は、その中間にある一時的な貯留槽(計量後中間貯槽)の残液量で運転継続の可否を判断する。</p>	
<b>対応の概要</b>	<p>(1) ハル排出シュートの詰まりがハル等の堆積によるものであることを確認する。</p> <p>(2) 治具を用いた遠隔作業により、堆積物の除去を行う。</p> <p>(3) シュートの洗浄を行った後、定められた操作手順に従って、運転を再開する。</p>	
<b>公表区分</b>	毎月集約して月1回公表(ホームページへ掲載)	
<b>対応区分</b>	<p>(a) 運転継続しながら復旧</p> <p>(b) 運転システムを切り替えて復旧</p> <p>(c) 当該機器を停止して復旧</p> <p>(d) 当該設備を停止して復旧</p> <p>(e) 影響範囲の設備を停止</p>	<p>国際評価尺度 (INES)のレベル</p> <p style="text-align: center;">0以下 1 2 3 4 5 6 7</p> <p>(レベル2以下は工場外への影響はない) 放射性物質の外部放出 工場外への影響</p> <p>日本原燃による評価: <b>レベル0以下</b> 放射性物質による汚染、被ばく等 工場内への影響</p> <p>運転制限範囲からの逃脱等 多重防護の劣化</p>

